

口永良部島のエラブオオコウモリの生態

山元 芳彦*

The Ecology of *Pteropus dasymallus* in Kuchinoerabu-jima

Yoshihiko YAMAMOTO

はじめに

口永良部島は、屋久島の北西方約12kmに位置する島で、近隣の屋久島や種子島などとともに大隅諸島を形成する。島はひょうたん型をしており、全域が屋久島国立公園となっている。

温泉も豊富にあるほか、島の周辺は魚釣りのポイントも多いため、1年を通して観光客が訪れている。面積は38.04km²周囲が49.67km、最高点が657mで人口が147人（2014年2月現在）の島である。

鹿児島県立博物館では、この地域のエラブオオコウモリに注目し調査を行ってきた。本調査は、エラブオオコウモリの撮影と鳴き声の録音を目的としている。

エラブオオコウモリはクビワコウモリ類の一種で、この類の北限種として国の天然記念物に指定されている。頭胴長は19～25cmで尻尾がなく、体重は320～660gである。眼は大きく視覚が優れ、臭覚も発達している。体毛は全身暗褐色で、その名のとおり首は、幅広く明るい黄色の毛帯で取り巻かれている。常緑広葉樹に生息し、夜行性である。昼間は木に留まって休み、夜に食物を探しに飛び立つ習性がある。

1 方法

(1) 調査期間

2013年9月11日～9月13日まで

(2) 調査場所

金岳小・中学校校庭

(3) 調査方法

午後10時～午前2時頃まで、金岳小・中学校の校庭にある数本のワシントンヤシに投光機を照らし、エラブオオコウモリが実を食べに来て、留まるところを撮影することにした。

機材は、投光機、ビデオカメラ、デジタルカメラを使用した。

2 結果

9月11日は、午後11時から午前2時まで数頭のエラブオオコウモリが飛来し、ワシントンヤシに留まるが、すぐに飛び立ったために撮影をすることはできなかった。しかし、エラブオオコウモリの鳴き声は、ビデオで録音することができた。天候は良好で、風が少しあり肌寒い感じがした。

9月12日は、午後10時から午前2時まで撮影をした。前日より多くのエラブオオコウモリが飛来し、ワシントンヤシに留まるが、すぐに飛び立ったために撮影をすることはできなかった。前日より周りの明るさを暗くするために、学校の野外照明等を段ボールで覆い、できるだけ投光機をつけないなどの配慮をしてエラブオオコウモリが留まるのを静かに待った。ワシントンヤシに「バサバサ」と音を立てて留まる瞬間を狙って撮影するが、光が当たるとすぐに飛び立ってしまった。エラブオオコウモリの姿は肉眼では確認できたものの撮影することまではできなかった。この日も天候は良好で、前日より風がなく湿った感じのする日であった。

残念ながらエラブオオコウモリの撮影はできなかったが、飛来する姿や鳴き声、ワシントンヤシに留まる姿は、肉眼で確認することができた。

9月13日は、昼間バナナの木に休んでいないか、金岳小・中学校の周辺を調査したが、発見することはできなかった。

3 考察

金岳小・中学校の校長先生に最近のエラブオオコウモリの様子について聞き取り調査をしたところ、1週間前にはもっと多くのエラブオオコウモリが飛来し、ワシントンヤシに留まっている姿を見たとのことだった。ワシントンヤシの下にはエラブオオコウモリのペレットが散乱していたことから、時期がやや遅かった

のではないかと考えられる。

おわりに

3日間の調査で、ワシントンヤシに留まっているエラブオオコウモリを撮影することはできなかったが、初めて見たその飛来する姿の優雅さや「ギャーギャー」と鳴く声を聞いたことは、自分自身にとって大きな収穫であった。また、最終日には、金岳小・中学校を訪

問し、エラブオオコウモリの剥製や写真、子供たちが描いたエラブオオコウモリの絵などを見せてもらった。エラブオオコウモリの調査を通して、口永良部島の自然の豊かさや、エラブオオコウモリの生息できる環境が維持されていることを強く願った3日間であった。

参考文献

・日本動物大百科（平凡社）